

全科目に共通のお知らせ

■ 教室の収容人員の関係で、定員に達し次第締め切らせていただきます。 ■ 各会場へは、公共交通機関でお越しください。

会場のご案内

鹿児島大学会場



鹿屋体育大学



鹿児島国際大学会場



志学館大学会場



鹿児島県立短期大学会場



「KRICEキャンパス鹿児島」について

「KRICEキャンパス鹿児島」は、鹿児島県内の6大学、4短期大学及び11高等専門学校が実施している単位互換制度です。(注1)

「KRICE」は、Kagoshima (鹿児島) Regional (地域) Intercollegiate (大学間) Credit (単位) Exchange (互換) の頭文字をとった名称です。

この単位互換制度は、各参加大学等が提供している地域性や独自性豊かな特色ある授業科目の中から、希望する科目を、科目開設大

学等(注2)で履修し、修得すれば所属大学等において単位として認定されます。

なお、検定料、入学料及び授業料は無料です。(但し、科目により所定の実習費等が必要な場合があります。)

また、コーディネート科目の他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。

(注1)参加大学等：鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工科大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校

(注2)科目開設大学等：単位互換制度に伴い、授業科目を提供する大学等

大学地域コンソーシアム鹿児島

連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808



KRICEキャンパス鹿児島

令和4年度 授業交流(単位互換) コーディネート科目

受講生募集!!

鹿児島大学会場
鹿屋体育大学会場
鹿児島国際大学会場
志学館大学会場
鹿児島県立短期大学会場 等

授業科目

1. 方言コンテンツを作ろう
2. アスレティックトレーナーの理論と実践
3. 異文化コミュニケーション論
4. 医・食・健康 2022
5. こころの世界 [The world of Human mind]
6. 人間と文化
7. 가고시ま教養プログラム
8. 가고시まフィールドスクール

開設大学

- 鹿児島大学
- 鹿屋体育大学
- 鹿児島国際大学
- 鹿児島純心女子大学
- 志学館大学
- 鹿児島県立短期大学
- 県内7大学等
- 県内7大学等

■学生の皆様へ

- ・学校によっては取扱いに違いはありますが、単位を修得すれば、所属大学等の単位として認められますので、申し込む前に所属大学等に確認して、お申し込みください。
- ・他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。
- ・開設大学と開設場所は、異なることがあります。

■一般の皆様へ

- ・左記5の科目は、一般の方も無料で聴講できます。授業科目開設大学へお気軽にお問い合わせください。(単位認定や修了書の発行はいたしませんので、ご了承ください。)

主催：大学地域コンソーシアム鹿児島
連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808
E-mail:kkyoumu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

科目名 方言コンテンツを作ろう

授業概要 この授業では、方言記録保存活動の一環として、フィールド調査に基づいて方言動画を作成し、配信することを目指す。

現在、鹿児島県内の方言は、消滅の危機に瀕している。その土地のことは、その土地の文化財であり、保護し保っていく努力が必要である。

この授業では、鹿児島県内の方言を使用した動画を作成し、方言の記録保存(アーカイブ化)をおこなう。まず、フィールドで取材と撮影をおこない、動画の素材を得る。そして、その動画を方言ベースで編集する。方言の録音、標準語訳、方言解説は、ネイティブへの調査に基づいておこなう(方言調査)。

これらの作業を通して、言語文化への理解を深めながら、地域課題の解決に向けて自ら行動できる力を身につける。授業のスケジュールは、受講生と取材先と相談のうえ決定する。

学習目標

- ・言語文化への理解を深める。
- ・言語の記録保存によって研究貢献および地域貢献をおこなう。
- ・地域課題の解決に向けて、自ら判断して活動できるようになる。

授業計画

- ・事前学習①-概要説明、フィールド決め、アポイントメント取り等-
【※5月上旬に1回目を開催予定】
- ・フィールド調査
- ・事後学習①&事前学習②-動画編集作業、方言調査準備-
- ・方言調査
- ・事後学習②-方言ナレーション、字幕、方言解説の編集-
- ・成果発表-発表会、完成動画のネット配信-

試験・評価方法 授業への参加、課題への取り組み(50%)、成果物(50%)

担当教員 坂井 美日

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス(教室が決まりしだい、お知らせします。)

開講期間 令和4年度前期(受講生および取材先と相談のうえ決定する)

開講時間 受講生および取材先と相談のうえ決定する

単位数 2単位

成績発表時期 鹿児島大学前期集中講義科目の成績発表時期に準ずる

定員 15名
受講希望者が定員を超えていた場合は、選考をおこなう。

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項

- ◆ 一般の方の聴講:不可
- ◆ 申込先:単位互換生は所属大学等
- ◆ 申込期限:4月25日(月)
- ◆ 連絡先:鹿児島大学学生部教務課教務係 電話099-285-7351
- ◆ 対面授業の予定であるが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、適宜遠隔(Zoom等)に切り替える。

科目名 アスレティックトレーナーの理論と実践

授業概要 一般的なりハビリテーション医学の解説とともに、アスレティックトレーナーの役割、対象となる各種疾患の病態について享受します。また、アスレティックトレーナーとして身につけておきたい実技について体験し、その経験値・実践値を身につけることを本授業の目的とします。

学習目標

- ① アスレティックトレーナーが行うリコンディショニングの概念、対象となる各種疾患の病態について理解できる。
- ② リコンディショニングを目的としたアスレチックトレーニングの実施に必要な基本手技ができるようになる。

授業計画

- ① スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの歴史と日本の現状
- ② スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割
- ③ リコンディショニング総論
- ④ アスレティックトレーナーが行う測定と評価(実技含む)
- ⑤ アスレティックトレーナーが知っておくべきアンチ・ドーピング
- ⑥ 救急処置について(実技含む)
- ⑦ PRICE処置と熱中症予防(実技含む)
- ⑧ 部位・疾患別リコンディショニング:体幹・脊椎(実技含む)
- ⑨ 部位・疾患別リコンディショニング:上肢(実技含む)
- ⑩ 部位・疾患別リコンディショニング:下肢(実技含む)
- ⑪ テーピング実技:オリエンテーション
- ⑫ 足部のテーピング・肉ばなれに対するテーピング
- ⑬ 肘関節のテーピング
- ⑭ 足関節のテーピング
- ⑮ 膝関節のテーピング

試験・評価方法 成績評価は授業への取り組み態度、レポートの各得点を合計し、60点以上を合格とする。なお、全日程を出席した受講生のみを成績評価の対象とします。

担当教員 藤田 英二

開講場所 鹿屋体育大学

開講期間 8~9月

開講時間 未定

単位数 2単位

成績発表時期 10月

定員 20名程度

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆ 授業で使用する資料は配付します。

科目名 異文化コミュニケーション論

授業概要 地球上の誰もが文化の違いを超えて心を通わせ相互に理解しあえる方法があれば、これほど素晴らしいことはないが、現実の世界で起きている様々な出来事を見るにつけ、そんな魔法のような方法はどこにも存在しないことを認めざるを得ない。しかし、私たちが生きている21世紀のグローバル化した世界の持続可能性は、多様な文化の共存を認めあい、異文化間コミュニケーションの困難を克服しようとする各人のたゆみない努力にかかっていることもまた厳然たる事実である。文化とコミュニケーションをめぐる多様な概念を理解した上で、その理解を異文化間コミュニケーションの様々な場面で活用し問題解決を図ることができるマインドセットを身につける。
毎回授業内で小グループに分かれてディスカッションを行い、異なる意見に触れることを通して自分の考えを深めてもらう。授業を通して実際にコミュニケーションスキルが高められるようにする。

- 学習目標**
1. 異文化接触の場面でのようなコミュニケーション不全が起こりうるかを説明できる
 2. 自分自身の文化的背景やその文化の特徴を客観的に把握する
 3. 異なる文化的背景を持つ相手とも積極的に意思疎通を図ることができる
 4. 文化の違いを認めあいながら議論や交渉に参加し自分の意見を述べるができる

- 授業計画**
- 第1回 文化とは?
 - 第2回 文化の可視性と不可視性
 - 第3回 文化的偏見とステレオタイプ
 - 第4回 多民族・多文化・多言語社会
 - 第5回 大学(学校)におけるコミュニケーション
 - 第6回 性別役割分担と異文化間コミュニケーション
 - 第7回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(1):ジェンダー
 - 第8回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(2):エスニシティ
 - 第9回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(3):階級
 - 第10回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(4):宗教
 - 第11回 メディアと表象
 - 第12回 異文化コミュニケーション論で時事問題を分析する
 - 第13回 ケース・スタディ(1):カルチャーショックと異文化受容
 - 第14回 ケース・スタディ(2):ステレオタイプと偏見を超えて
 - 第15回 まとめ

試験・評価方法 レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員 小林 潤司

開講場所 鹿児島国際大学

開講期間 前期集中講義期間中(8月上旬)の4日間

開講時間 9:10~16:10(1限~4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 20名まで

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆申込先:単位互換生は所属大学等
◆申込期限:7月15日(金)
◆連絡先:鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
◆原則、対面授業ですが、急遽オンライン授業へ切り替わる場合があります。

科目名 医・食・健康2022

授業概要 講義ごとに「医、食、健康」にかかわるテーマを扱い、学生自身が主体的に考え、広い視野と考察する力を身に付ける。

- 学習目標** 大学における学修の姿勢や方法、多様な観点や考察する力を身に付けることがねらいである。
1. 学んだことを基に自分の意見を述べるができる。
 2. 大学における学修する力を身に付け、自身の学修に活かすことができる。

- 授業計画**
- ① 新型コロナウイルス【岩田 真一】
 - ② 食の安全・食中毒、エビデンス・ベースド・ニュートリション【松元 圭太郎】
 - ③ 意外と知らない?学校保健【柳園 順子】
 - ④ 持続可能な食生活【山元 有子】
 - ⑤ 今こそナイチンゲール【小湊 博美】
 - ⑥ エンドオブライフケアを支援する意思決定のあり方について【浅野 倫子】
 - ⑦ 日常的な応急手当~止血法と包帯法~【山下 里奈】
 - ⑧ うま味と鹿児島の食文化【真邊 久美】

試験・評価方法 講義ごとの課題による総合評価とする。

担当教員 看護栄養学部教員8名によるオムニバス形式

開講場所 鹿児島大学都元キャンパス共通教育棟1号館4階common room 3

開講期間 9月~12月の土曜日、1講義2コマの全16コマ

開講時間 1日1講義(2コマ)【午前】9:00~12:10
1日2講義(4コマ)【午前】9:00~12:10、【午後】13:00~16:10

単位数 2単位

成績発表時期 2月中旬

定員 15名程度

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校(4年次生、5年次生及び専攻科生)]

特記事項 ◆特になし

科目名 こころの世界【The world of Human mind】

授業概要 心理学のさまざまな分野について学び、こころの世界を探訪する。

学習目標 人の心理についてさまざまな側面に関する知識を修得する。

授業計画 「記憶の不思議」人の記憶のメカニズムについて概説する
 「経験と行動変容」人の行動パターンはいかに形成されるのか
 「モチベーションの科学」人のやる気はどこから生まれるのか
 「コミュニケーションと対人影響」人の心はいかにして動かされるのか
 「好き嫌いの心理学」どんなとき相手に魅力を感じるのか
 「メンタルヘルス」精神的健康はいかにして守られるのか
 「心の発達」人の心はいかに育つのか

試験・評価方法 最終時間に試験を実施します。レポートの提出を求めめることもあります。

担当教員 志學館大学人間関係学部 野上 真

開講場所 志學館大学本館

開講期間 8月16日(火)～19日(金):集中講義(4日間)

開講時間 9:40～16:50(1限～4限)

単位数 2単位

成績発表時期 10月

定員 50人

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
 ◆ 一般の方(上記以外)、ただし、単位認定なし。

特記事項 ◆ ※テキストは使用しません。

科目名 人間と文化

授業概要 県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。
 (9/13、9/14、9/15、9/16、9/20、9/21、9/22の集中講義)

学習目標 人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。

授業計画 第1回 古典文学と文化(1):文学の利用
 第2回 古典文学と文化(2):現代に生きる古典
 第3回 生物文化多様性:生態系を守る文化
 第4回 生物文化多様性:地域の付加価値を創造する文化
 第5回 人間の感覚の定量化
 第6回 人間の行動の定量化
 第7回 令和の教育と文化(1):個別最適な学びについて考える
 第8回 令和の教育と文化(2):協働的な学びについて考える
 第9回 西洋の服飾文化:ハイファッションの歴史
 第10回 日本の服飾文化:大正から昭和初期
 第11回 企業理念と企業文化
 第12回 組織と文化の関係について
 第13回 法と文化:世界に法律がなかったら?
 第14回 日本の法文化:安楽死が合法化されたら?
 第15回 まとめ

試験・評価方法 レポートの提出(全体に関するレポート1篇と特に興味関心を持った回に関するレポート1篇)(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。

担当教員 木戸 裕子・古川 那由太・倉重 賢治・石井 英里子・田邊 じずか・竹中 啓之・疋田 京子

開講場所 鹿児島県立短期大学

開講期間 前期集中講義(9月13日から9月22日(土日祝日を除く))

開講時間 午後6時から午後9時10分(1日2コマ)

単位数 2単位

成績発表時期 11月

定員 特になし

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆ 特になし
 ◆ 申込期限未定

科目名 かがしま教養プログラム

授業概要 この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかがしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特徴ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっています。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。

学習目標

- ①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。
- ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。
- ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。

以上の三つの学習目標を達成しなければならない。

試験・評価方法 グループ討論・発表60%(内容30%、発表態度15%、成果物15%)、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。

なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。

担当教員 県内7大学等の関係教員

開講場所 鹿児島大学

開講期間 令和4年前期8月下旬の3日間(集中授業)の予定

単位数 2単位

定員 県内7大学等の受講生150人

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項 ◆一般の方の聴講:不可
◆申込先:所属大学等
◆連絡先:鹿児島大学学生部教務課教務係 電話 099-285-7351

※コロナウイルス感染症等の影響で授業内容が変更となる可能性もありますので、ご了承ください。

科目名 かがしまフィールドスクール

授業概要 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。

この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。

学習目標

- ①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。
- ②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。
- ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。

試験・評価方法 グループ討論・発表60%(内容30%、発表態度15%、成果物15%)、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。

なお、発表及びレポートを合わせて評価するため、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。また、提出期限までにレポートを提出しなかった場合、評価対象外とする。

担当教員 県内7大学等の関係教員

開講場所 テーマに応じて、グループごとに鹿児島県内各所に分かれる

開講期間 令和4年前期8月下旬、2泊～3泊または日帰り4日間(集中授業)の予定

単位数 2単位

定員 県内7大学等の受講生90人

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生[大学の学生(専攻科生、大学院生は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
※夏季集中科目(かがしま教養プログラム)「グローバルな視点から見たかがしま再発見」を履修した学生を対象とする。

特記事項 ◆一般の方の聴講:不可
◆申込先:所属大学等
◆連絡先:鹿児島大学学生部教務課教務係 電話 099-285-7351
◆その他:宿泊経費等が5,000円程度必要になります。

※コロナウイルス感染症等の影響で授業内容が変更となる可能性もありますので、ご了承ください。